

会議録（要旨）

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事

(1) 市民活動状況調査の調査結果及び報告書(案)について

<事務局説明>

資料に基づき、事務局より説明を行った。

<委員からの意見>

【1】 1. 活動形態 (p2) について

- ・ NPO法人の回答が8件とあるが、市内には22件のNPO法人があるはずである。他の14件は回答がなかったということか。
⇒ (事務局より) 本調査は、調査対象を「令和4年度に、八潮市又は八潮市社会福祉協議会に市民活動又はボランティア活動の届け出をした団体及び個人」としている。市内NPO法人のうち、調査対象となったのは11件であり、うち8件から回答をいただいた。
- ・ 「当事者団体・個人」がどのような方を指しているのかがわからない。該当する団体や社会福祉など特定の分野で活動している方は理解できると思うが、一般の方にはわかりづらいのではないか。
⇒ (事務局より) 「当事者団体・個人」とは、社会問題や特定の障害・疾病をかかえる方で結成された団体を指している。「当事者団体・個人」という文言は、社会福祉協議会で使用している文言を引用している。ご意見は、次回調査を行う際の参考にさせていただく。

【2】 6. 主な活動場所又は活動場所に最も近い公共施設 (p8) について

- ・ 選択肢に地域包括支援センターがあるが、地域包括支援センターは公益機関ではあるが貸館などは行っていないため、選択肢に含むべきではないのではないか。
⇒ (事務局より) 既に調査は完了しているため、報告書にはこのとおり記載する。ご意見は、次回調査を行う際の参考にさせていただく。
- ・ 選択肢に各町会・自治会の公民館(集会所)を含めても良かったのではないか。八潮市は全国的には珍しく町会・自治会の集会所が市立公民館の分館と位置付けられている。利用している団体が一定数あるはずである。
⇒ (事務局より) ご意見は、次回調査を行う際の参考にさせていただく。

【2】 7. 令和3年度の決算額(支出総額) (p9) について

- ・ 決算額が「5万円未満」の団体が非常に多いのはなぜか。会費を一人当たり月額1,000円ほど徴収すれば、5万円はすぐに超過するのではないか。決算額が5万円未満の団体は、どのような活動をしているのか。
⇒ (事務局より) 団体によって活動状況や予算財源、会費設定は異なるため一概には言えないが、会員の生活の負担を考え、会費の金額を設定しているのではないか。また、新型コロナウイルスの感染防止により事業が中止となった結果、決算額が5万円未満の団体が多くなった可能性も考えられる。いずれにせよ、今回の調査の対象は「令和4年度に、八潮市又は八潮市社会福祉協議会に市民活動又はボランティア活動の届け出をした団体及び個人」としており、決算額が5万円未満であったとしても、様々な活動をしている団体と考えられる。

【2】 13. 他団体等との連携・ネットワークは必要だと思いますかについて

- ・「とても必要」「必要」が58%と高く、好ましく思う。世代間交流を含め、団体間の交流・連携についての政策を重点的に進めることが重要だと考える。

【6】自由記述 (p44~45) について

- ・ やしお生涯学習館で貸出ししている備品や館内設備の老朽化は課題ではないか。施設を利用してほしいという思いとの両立が困難に思われる。
⇒ (事務局より) やしお生涯学習館は、大規模な改修なく開館から27年経過している。日々、職員が備品や館内設備の維持管理に努めているが修繕が追い付かない箇所もある。今後も利用者から意見をいただきながら、安心・安全に利用していただけるように努めていく。
- ・ やしお生涯学習館の建物は立派である。資機材の整備・メンテナンスなど、内部にも予算をかけてはどうか。
⇒ (事務局より) 資機材について、故障してから修理又は買い直すと高額になってしまうため、計画的にメンテナンスを行うなどして長く使用できるように努めていく。
- ・ 印刷機などの貸出しは、やしお生涯学習館以外では行っていないのか。
⇒ (事務局より) 八潮メセナにおいても、市民活動団体に印刷機の貸出しを行っているため、利用を希望する場合は、窓口の声掛けしていただきたい。
また、看板印刷などについても、市の所管施設で行う催しの場合は、八潮メセナにおいて大型印刷機を利用することが可能である(実費は負担していただく)。認知度が低いことがわかったため、今後は周知に力を入れていく予定である。

その他全般

- ・ 全体を通して、報告書の内容は“市民活動に関する調査”の結果として妥当と思われる。次回調査を行う場合は、活動経験を問う設問をつくり、活動への参加率や経験値を測られると良いのではないかと考える。
- ・ かつて社会教育は、団体活動が中心だったが、現在は団体活動が停滞しており個人学習が増加している。背景として、ひと昔前までは年齢が高いほど情報が蓄積されて、団体の中で年長者が若年者に教える流れがあったが、現代は若い人のほうが情報収集に長けており、情報に詳しいほど利益も大きくなり、個人での学習が増えたことが考えられる。団体活動が停滞し、個人学習だけが進むと、“集団意識”が低下し、コミュニティの崩壊につながりかねないとする。
- ・ 会員構成で高齢者割合が高い団体は世の中の動きについて行きづらい傾向にあるが、高齢者は知恵の集まりであり、定年後世代は人材の宝庫である。この年代の方の社会参加を促進することが重要だと考える。
- ・ 八潮市は平成7年頃、全国的にも生涯学習のトップ集団として注目のまちであった。生涯学習のまちを蘇らせていただきたい。

<まとめ>

市民活動状況調査報告書は、事務局にて欠席委員の意見の反映や校正を行い、市長(担当課)へ提出する。

次期委員会では、市民活動状況調査報告書をもとに課題や解決策についても審議する。

4. その他

(1) 次回の委員会等について

- ・ 今期の委嘱期間が3月末日で満了となる。次年度は改めて委員の委嘱を行う。公募委員の募集について、広報やしおの4月10日号に掲載する予定である。

5. 閉会